

広島別院だより

「御本尊還座式（げんざしき）を執行」



広島別院明信院の還座式が六月二十五日に行われました。



法正寺を出発

式中、木曾修広島別院輪番は「親鸞聖人の御遠忌」という縁を頂いて広島別院が完成しました。ここは宗祖の教えをたずね、求めていく道場です。人々が歩き、往来できる道がここに行われました。



木曾修輪番



勤行後の式典では建設関係者への感謝状授与と仏具寄付者・特別懇志寄付者の採納式が行われました。



勤行中の散華



参道列



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式

建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式

建設関係者への感謝状授与

(海谷英爾設計士)



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



建設関係者への感謝状授与



佛具指定寄付者採納式



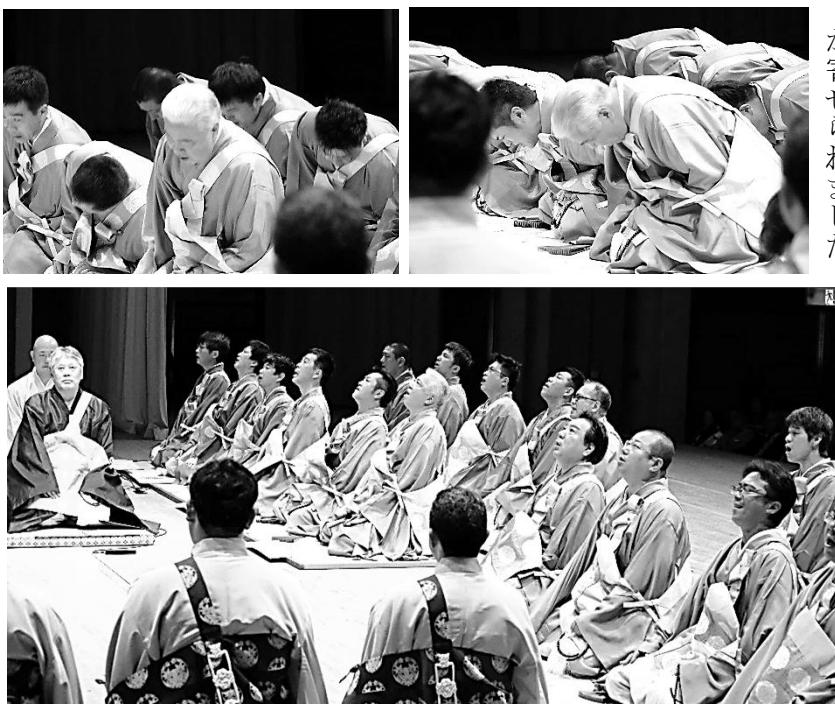
建設関係者への感謝状授与

**宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念講演会
＼開催報告／**

六月十四日、国際会議場フェニックスホールにおいて宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念講演会が開催されました。

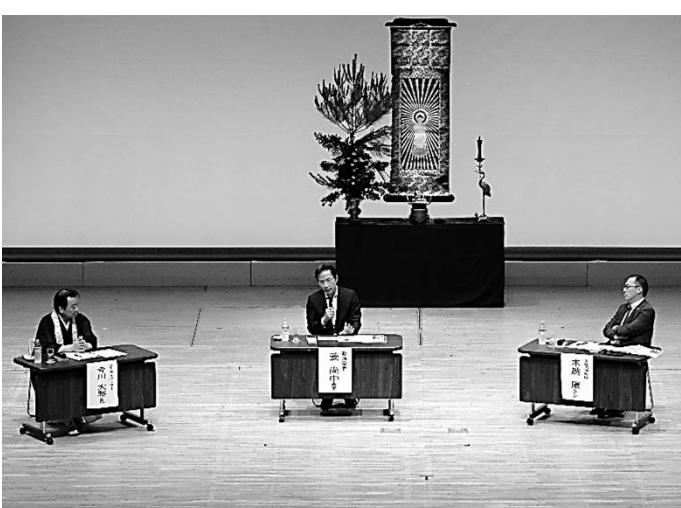
講演会は三部構成で、第一部の「伝統声明の紹介」では真宗大谷派に七百年以上伝わる「坂東曲」（ばんどうぶし）が披露されました。

本願寺派のご門徒が圧倒的に多い広島の地で、三十名以上の僧侶が上体を前後左右に激しく揺さぶりながら勤める坂東曲の迫力に約千三百名（一般招待者約六百名）の来場者の多くから感動の声が寄せられました。



続いて第二部では政治学者の姜尚中氏（カン・サンジュン）による基調講演がありました。（基調講演要旨参照）

そして第三部は寺川大雅芸備組西願寺住職（ディネーター）と木越康大谷大学教授が「共苦」と「共生」というテーマを中心に対談をしました。親鸞聖人の教えを軸とした木越氏とキリスト教の視点から見た姜氏による宗教を超えた対話に来場者は真剣に聞き入っていました。（コ一



対談風景



寺川大雅氏



木越康氏



姜尚中氏



【基調講演要旨】

〈共苦〉から〈共生〉の未来へ

—広島・水俣・福島が問いかけるもの—

政治学者 姜 尚中

「ヒロシマからフクシマへ

来年、広島は被爆から七十年の節目の年を迎える。

広島で起きた現実が七十年も経つと忘れられないが、被爆者には忘ること

なく目覚めて被爆の実相を伝え続けている被爆者は今、福島に大変心を痛めている。

唯一の被爆国が原子力の平和利用を推進した。五

十基の原発がなぜ作られたのか？それは、原発への賛成・反対という問題を超えた人類史的な問いかけ

である。

東京の明るさこそ人が求めてやまない「樂」の象徴である。私たちは「樂」を求めて努力する。その象徴が明るさである。実はその明るさは福島の原発によってまかなわれている。

光があるところに影がある。影が深いほど光は明るい。



フクシマからミナマタへ

福島の汚染水の海への流出は水俣の不知火の海を連想させる。その地方の奇病、風土病と捉えられていた水俣病は有機水銀が原因と究明された。有明海沿岸一帯には今も苦しみを訴える人々が何万人もいる。水俣病による差別を深く、深く隠しておびえて暮らす人々が大勢いる。

福島出身であることを今から口に出せないという声が多く聞かれる。公式には十万人、非公式には十五万人が県外に出たといわれる。水俣をみれば、福島も同じ道をたどるのかと思わざるをえない。

「苦を特定の人々に押し付けている現代」

水俣、福島、そして広島。五濁悪世の現代社会。苦を特定の人々に押し付け、自分は光の中でたっぷりと恩恵にあずかっている。

苦を共に分かち合う。生きている人々が苦を共に分かち合うことが本来の人の姿だと思うが、苦に喘ぐ人たちと共に生きるように国が先導的な役割を果たしているとはいえない。むしろ、その反対に苦しみの世襲化が社会の趨勢となっている。これこそが今の時代に起きている不条理である。考えてみれば、苦からの救いを問い合わせたのが親鸞聖人である。苦からどう救われるかをたずね続けたのが親鸞聖人である。

「大の虫を生かすために小の虫を殺してきた」なぜ沖縄に日本の七十%以上の基地があるのか？なぜ沖縄だけが苦をなめなければならぬのか？核の傘と広島とは本来両立しないが、大の虫の核の傘のために小の虫の広島は我慢するしかない。

【対談要旨】

「大の虫を生かすために小の虫を殺してきた」なぜ沖縄に日本の七十%以上の基地があるのか？なぜ沖縄だけが苦をなめなければならぬのか？核の傘と広島とは本来両立しないが、大の虫の核の傘のために小の虫の広島は我慢するしかない。

現場で生まれる縁を手がかりに

共生のためにはまず、苦を分かち合うことだ。苦を共にするには、まず自分の目の前にある現場で出来る有縁を大切にしていく。樂や富や喜びを共にするより苦を共にする「共苦」が「共生」につながる。生きている現場で苦を分かち合うことで、支え支えあうという本来の関係が生まれるのではないだろうか。

（取材 南 正純）

お寺の活動いろいろ

七月十二日、別院で仏教

基礎講座（安芸南組主催）が開講しました。講座は全八回。講師は古田和弘大谷大学名誉教授。講座テーマは「釈尊から親鸞聖人へ」。

当日はチラシや新聞などで応募した七十名以上が受講し、会場は満堂の熱気に包まれました。

釈尊の仏教が海を渡り、親鸞聖人の念仏に至るまでの過程を時折ユーモアを交えながら語る古田先生のお話に和やかな雰囲気の中、



古田和弘師



第一回を終了しました。
次回は八月二十三日。
定員まで若干の余裕があります。お問い合わせはなだおまで。090



・『山陽教区同朋会館・広島別院落慶法要』
一〇一四年十月一日（木）午後一時
宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要
一〇一四年十月三日（金）午前九時半

～講師プロフィール～
一樂真（いちらく・まこと）
1957年石川県生まれ。
大谷大学教授（真宗学）
主な著書に『親鸞聖人に学ぶ
-真宗入門-』（東本願寺）、
『親鸞の教化-和語聖教の世
界-』（筑摩書房）など。

※お寺のはてなワードはお休みです。

■法事・葬儀は休院日でも承ります。
今後ともよろしくお願ひいたします。

休院日

土・日曜日、祝日、お盆、年末年始

■ご参拝の際は前もってお電話ください。
お寺のはてなワードはお休みです。

参拝時間

九時～十七時

【主催】大谷大学同窓会広島支部



みなさまの参拝をお待ちしております。
が、よろしくご指導のほど、お願ひ申し上げます。

期日 九月六日（土）

午後三時三〇分～五時

【講師】一樂真師
【講題】「今、幸せについて考える」

【聴講料】1000円

【定員】八十名

■山口県
・九月二十日（土）
午後五時

編集後記



真宗大谷派(東本願寺)広島別院明信院

〒730-0044 広島市中区宝町4-16

Tel 082-241-5342

【HPアドレス】

<http://www.ac.auone-net.jp/~hirobetu/>



記念講演会でのこと。フェニックスホールで当日券の受付をしていたところ、二組の外国人に「何をやっているの？映画？」と聞かれ、咄嗟に「ブッディストショウ（坂東曲のつもり）、アンド・スピーチ（講演のつもり）」と答えました。すると、一組目の母親からは「ブック（本）？」と聞き返されました。小学生ぐらいの男の子が母親に「ノー！ブッディスト！」とフォローしてくれました。平和公園の中にあるホールなどで、原爆関係の映画か何かと思ったのでしよう。

広島別院・山陽教区同朋会館広島

「業務開始」

広島別院・山陽教区同朋会館広島は皆様のおかげにより無事に再建されました。六月二十五日より別院・教区同朋会館としての業務を開始しております。

何かと不手際なことがあるかと存じます

が、よろしくご指導のほど、お願ひ申し上げます。

おしゃせ（1）

「仏教公開セミナー開催」

来る九月、広島別院で左記の通り仏教公開セミナーが開催されます。お申し込みください。整理券を送付します。尚、定員になり次第、締め切りとなりますので、あらかじめご了承ください。

期日 九月六日（土）

午後三時三〇分～五時

【講師】一樂真師
【講題】「今、幸せについて考える」

【聴講料】1000円

【定員】八十名

■山口県
・九月十四日（日）
午前九時三〇分

おしゃせ（2）

「テレビ局がやつてきました」

テレビ新広島「そーだつたのカンパニー」のロケが広島別院で行われました。広島別院の仏具を製作した（株）三村松の企業取材のようです。

当教区からは泉原教区会副議長がインタビューを受けました。放送日は

左記の通りです。

ぜひご覧ください。

■広島県・岡山县

・九月十四日（日）
午前九時三〇分

■山口県
・九月二十日（土）
午後五時